

京都大学附属図書館利用支援課
坂本 拓

平成30年度大学図書館職員短期研修
学術情報リテラシー教育の現状

平成30年
10月2日(京都会場)
10月18日(東京会場)

Inhaltsverzeichnis



「情報リテラシー」とは？



京都大学の情報リテラシー教育体制



京都大学における情報リテラシー教育



研究支援としての情報リテラシー教育



情報リテラシー教育をより良くするために

自己紹介

京都大学採用（2006年）

文学研究科図書館

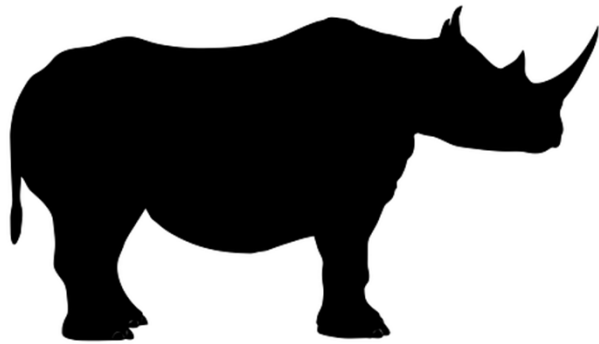
- ・ 受入業務 2年6ヵ月
- ・ 洋書目録業務 1年

工学研究科桂地球系図書室（1人職場）

- ・ 図書館業務全般 2年6ヵ月

附属図書館（中央館）

- ・ 外国雑誌契約、雑誌目録、APC算出（3年）
- ・ 情報リテラシー、レファレンス、学生協働（3年6ヵ月）



「情報リテラシー」とは？

リテラシー

読み書きの能力。また、ある分野に関する知識や能力。

「情報リテラシー」

日本国語大辞典



情報リテラシーの定義

「情報が必要なときに、それを認識し、必要な情報を効果的に見つけ出し、評価し、利用する」ことができるように、個々人が身に付けるべき一連の能力



ACRL (2000.1.18)

Information Literacy Competency Standards for Higher Education

「高等教育のための情報リテラシー能力基準」

<http://www.ala.org/acrl/sites/ala.org.acrl/files/content/standards/InfoLiteracy-Japanese.pdf>

情報リテラシーの定義その2

「高等教育の学びの場において
必要と考えられる情報活用能力」

すなわち・・・

- ・ 課題を認識する能力
- ・ その解決のために必要な情報を探索し入手する能力
- ・ 得られた情報を分析・評価、整理・管理する能力
- ・ 得られた情報を批判的に検討する能力
- ・ 自らの知識を再構造化する能力
- ・ それを発信する能力



JANUL 「高等教育のための情報リテラシー基準」 2015年版 より

<https://www.janul.jp/sites/default/files/2018-02/sftl201503b.pdf>

情報リテラシー

コンピュータ
リテラシー

論文の
書き方

著作権の
知識

レポートの
書き方

メール
マナー

プレゼン
スキル

図書館の
使い方

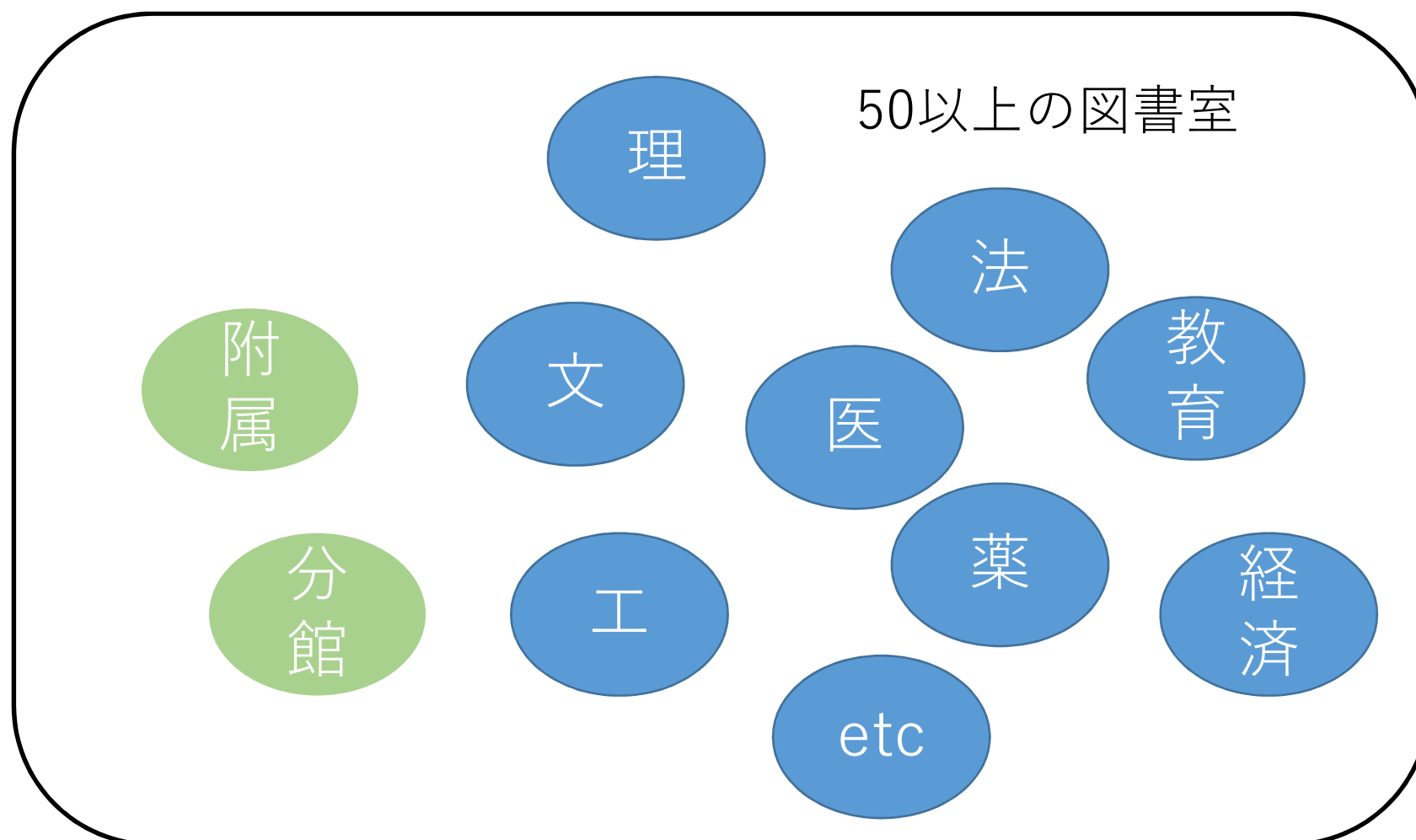
その他



京都大学の 情報リテラシー教育体制

京都大学の図書館

図書館機構



京都大学の情報リテラシー教育体制

附属図書館（中央館）

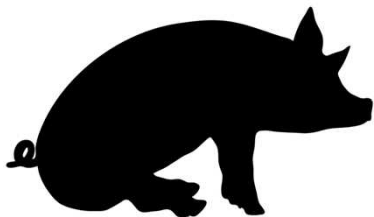
利用支援掛 掛長1人, 常勤1人+1人(ILLと掛け持ち), 非常勤1人

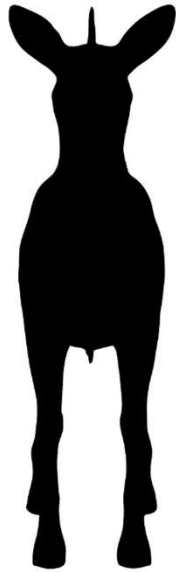
図書館機構

リテラシー・レファレンス部会 (9名)

その他

全学共通科目「大学図書館の活用と情報探索」演習補助
(12名)






京都大学における 情報リテラシー教育

新入生対象

全学支援機構ガイダンス

- ・ 全ての新入生を対象
- ・ 情報環境機構、図書館機構、環境安全保健機構による
合同ガイダンス



1年で1番多くの
人の前で話す日！



新入生対象その2

スタンプラリー

- ① 京都大学附属図書館の、館内の各ポイントを回ってスタンプを10個集めてもらう。
- ② 10個のスタンプの箇所に数字が書かれており、全て集めるとISBNになっているので、それでOPACを検索してもらう。



利用者に自分で学んでもらえる！



全学共通科目

「大学図書館の活用と情報探索」

- ・ 半年間、全14コマの講義と演習
- ・ 4人の教員と約10人の図書館員で作り上げる
- ・ OPACの検索から始まり、4回のグループワークを経て、最終的にはレポートが書けるように



Youtubeでの
反転学習も導入！



全学共通科目その2

「情報基礎演習」

- Googleで調べられるものと調べられないもの
- 図書/論文/新聞 など資料種別の特徴
- OPACの検索(ワイルドカード)
- 日本語論文の検索
- 文献の引用の方法と文献管理ツール 等



90分みっちりやります！

図書館企画の講習会

定期講習会

ほぼ毎月、下記5つの講習会を別々の日に開催

- ・ OPAC の使い方 (30分)
- ・ 日本語論文の探し方 (30分)
- ・ 英語論文の探し方 (45分)
- ・ 文献管理ツールの使い方 (45分)
- ・ レポート・論文執筆のための調べ方講座 (60分)



みんな、
もっと来てね！

教員からの依頼

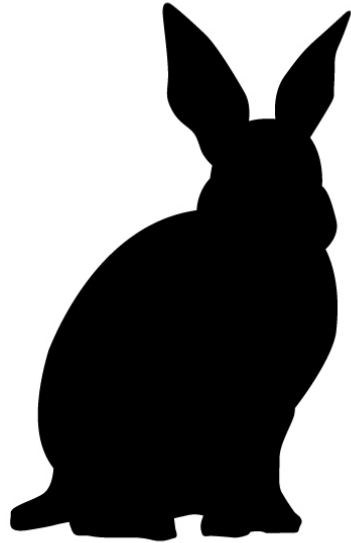
年間で 約9名の教員から、
全学共通科目やゼミでの講習の依頼がくる

農学部、教育学部、文学部 等

- ・ 毎回、教員からのリクエストが変わる
- ・ 学部ごとに、例題の作り直しが必要
- ・ 年々増加



ノーコメント！

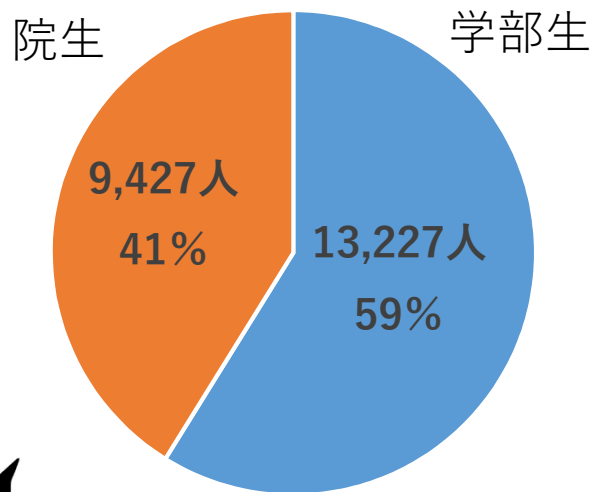


研究支援としての 情報リテラシー教育

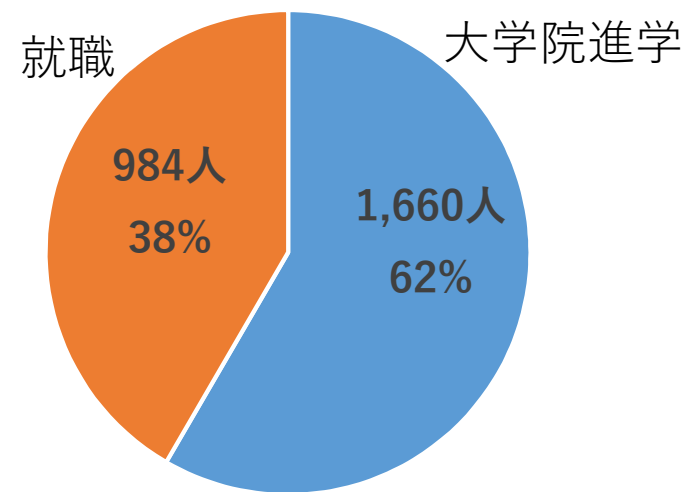
大学院生への支援

”学修支援”が流行だけど、本当にそれだけで良いの？

京大の学部生・院生の比率



京大の卒業生の進路



ちゃんと院生も
サポートしないと！

京都大学概要 2018年版より

大学院生の情報リテラシー教育

学部学生への情報リテラシー教育

→ 主に学修支援

大学院生への情報リテラシー教育

→ 主に研究支援



先生から「教育を受ける」学生と
「自分で研究をする」院生では、
支援の内容も大きく変わる！

大学院生が必要な情報リテラシー

成果発表に関するスキル

- ・ 投稿
- ・ 査読
- ・ 出版

※ 査読付きの英文誌に論文が掲載されることが 修了要件の研究室も多い



これらは、必要な知識なのに、体系だ
って教えてもらっていないことが多い

研究で求められる情報リテラシーの変化

○ 研究不正への社会的関心の高まり

○ オープンアクセスの隆興

○ ハゲタカジャーナルの危険性

※2018年4月3日、9月3日の毎日新聞朝刊にて問題提起



求められる情報リテラシーは変化する！
同じことを繰り返すだけではダメ！

大学院生対象の講習会

講習会「論文投稿で後悔しないために」(2016年から開催)

内容(その1)

○査読

- ・ 査読とは？(Single blind, Double blind, Open Review)
- ・ 査読に要する時間の調べ方

○インパクトファクター

- ・ JCRの操作、分野毎の平均IFの調べ方



図書館員が講義する講習会
では1番参加者が多い！



大学院生対象の講習会

内容(その2)

○オープンアクセス

- ・ 学術誌の価格高騰、Gold OA、Green OA
- ・ リポジトリ、オープンアクセスポリシーの紹介
- ・ オープンアクセスと被引用数

○ハゲタカジャーナル

- ・ 危険なジャーナルの特徴、DOAJの紹介



図書館が伝えられることは多い！



2015年に京大研究者が発表したLife Science分野の論文

	論文数	Citation	1論文あたりの平均被引用回数	1度も引用されない論文の割合
オープンアクセスジャーナル掲載論文	234	2,037	8.70	7.26%
それ以外	609	4,638	7.61	10.34%

(2018年4月3日時点でのScopus内のデータによる)

大学院生対象の授業

大学院共通科目

「学術研究のための情報リテラシー基礎」

(2018年4月から開講)

- ・ 研究サイクルとそこから派生する資料種別
- ・ 文献検索
- ・ 引用と参考文献
- ・ オープンアクセス 等について網羅的に90分講義。



これは研究開発室の教員が
中心になって担当！

大学院生対象の授業

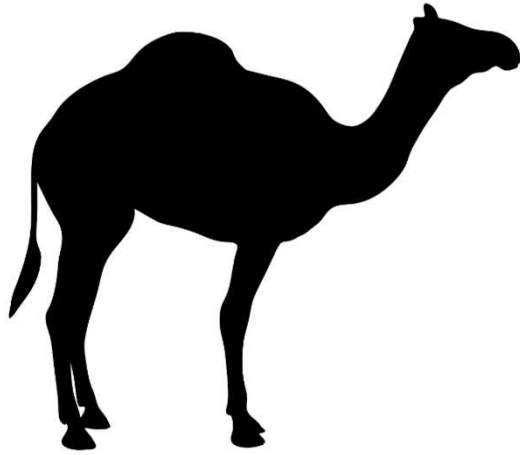
教育学研究科の新入修士必修の演習

(2018年4月から担当)

- ・ 文献検索実習
- ・ 研究公正
- ・ オープンアクセス
- ・ 図書館ツアー



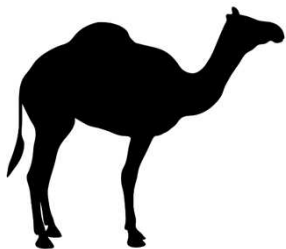
担当教員と入念な打ち合わせをして、
180分担当しました！



情報リテラシー教育を
より良くするために

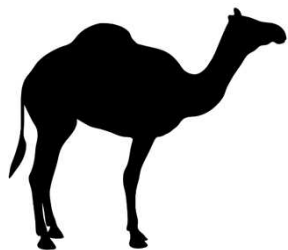
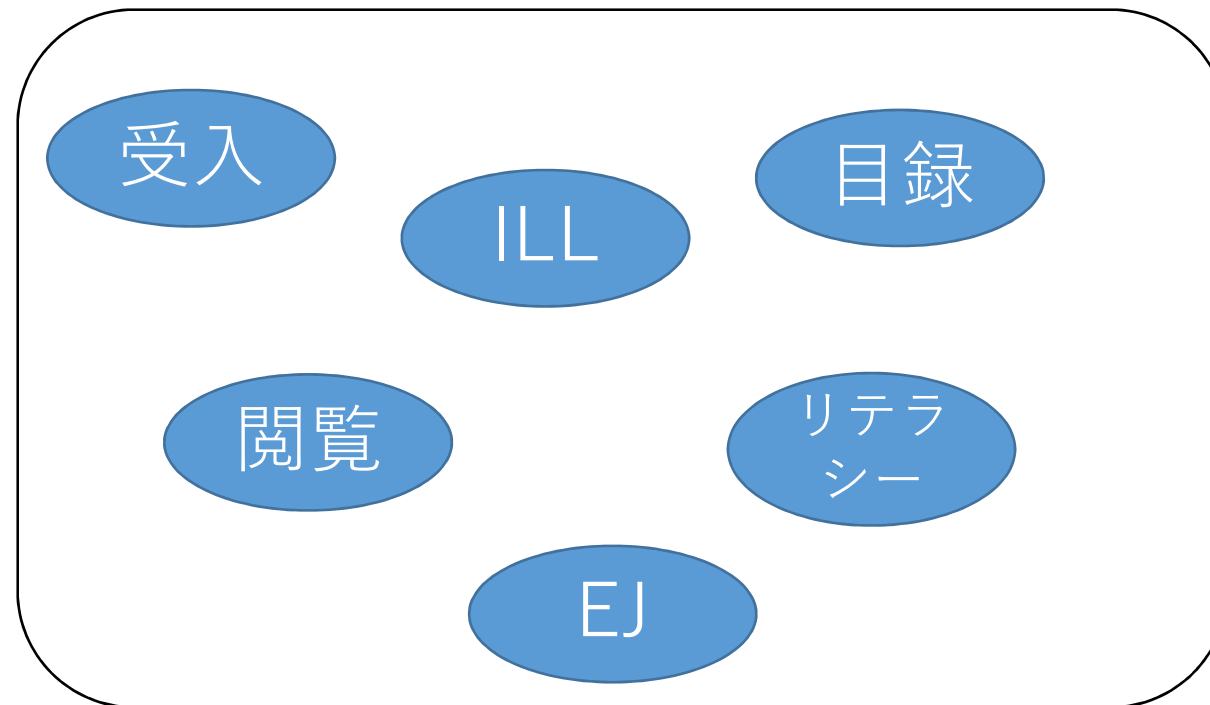
情報リテラシー教育を より良くするために

- ・ 図書館業務における情報リテラシー教育
- ・ 利用者を知る・大学を知る
- ・ 図書館外との連携
- ・ 他大学との情報共有



図書館業務における情報リテラシー教育

図書館の中でのリテラシー業務の優先度は？



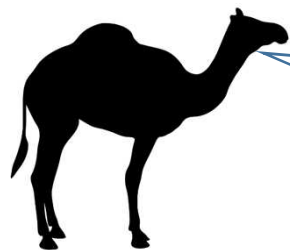
リテラシー業務は必須ではないが、
学内でアピールできる最大級の武器！

図書館業務における情報リテラシー教育その2

「図書館機構による学術情報リテラシー教育支援の方針」 2016年度改定

※ 参考資料としてループブックも作成。

(国大図協「高等教育のための情報リテラシー基準」2015年版を参考に。)

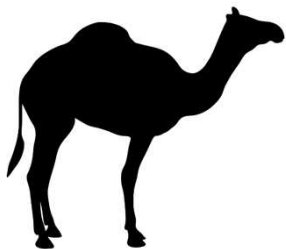


情報リテラシー業務
の見える化！

レベル 行動目標	初級	中級	上級
またる対象	学部1,2年生	学部2,3,4年生	学部4年生、大学院修士課程
1. 課題を正しく認識し、到達点(仮設)を設定する	<input type="checkbox"/> 課題の要約を正しく理解できる。	<input type="checkbox"/> 課題に沿ったテーマを設定できる。	<input type="checkbox"/> 自ら調査・研究テーマを設定し、仮設を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 課題解決のために不足している知識や情報を把握できる。
2. 必要な情報入手のために探索計画を立てる	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞、視聴覚メディア、インターネット等、情報・メディアの種類や特性を理解できる。 <input type="checkbox"/> 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。	<input type="checkbox"/> 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる。 <input type="checkbox"/> 課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測できる。	<input type="checkbox"/> 専門分野における学術情報の流れを説明できる。 <input type="checkbox"/> 信頼性の高い情報源を選択できる。 <input type="checkbox"/> 計画の実現性においてプロセスのモニタリングができる。
3. 情報探索ツールを適切に選択・活用し、情報を収集する	<input type="checkbox"/> 図書館の蔵書検索ツールを利用し、指定された資料を検索できる。 <input type="checkbox"/> 参考・引用文献リストを適切に取り組み、調査に活用できる。	<input type="checkbox"/> 課題に応じて適切なメディア(図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア、インターネット)人的情報源を選択できる。 <input type="checkbox"/> 文献検索の検索語(検索語・上位語・下位語)を工夫し、複合子(AND・OR・NOT)を利用し、データ・ベースを検索できる。	<input type="checkbox"/> 先行研究論文の引用文献リストを利用し、制約的に調査できる。 <input type="checkbox"/> 望ましい情報を得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、データ・ベース・検索キーワードなどを見直すことができる。 <input type="checkbox"/> 信頼性の高い情報源から必要に応じて利用することができる。
4. 情報を分析・評価し、体系的に整理・管理する	<input type="checkbox"/> 学術的文章の要旨をまとめることができる。 <input type="checkbox"/> 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる。	<input type="checkbox"/> 入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できる。 <input type="checkbox"/> 資料リストを作成し、管理できる。	<input type="checkbox"/> 批判的思考をもとに、入手した情報の信頼性・客観性・正確性・関連性を評価・分析できる。 <input type="checkbox"/> 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる。
5. 整理した情報を批判的に検討し知識を再構築化する	<input type="checkbox"/> 入手した情報、データおよび意見を比較・分類し、自分の考えと類似する点や相違点を説明できる。	<input type="checkbox"/> 複数の情報、データおよび意見を比較し、自分の考えとして最も相応しいものを客観的に選択できる。 <input type="checkbox"/> 選択した情報、データおよび意見を自分の文章で整理づけ、自分の言葉で説明できる。	<input type="checkbox"/> 得た情報、データおよび意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで結論として再構築できる。 <input type="checkbox"/> 再構築した知識をもとに、自らの知識を再構築し、自分の考えとして説明できる。
6. 情報を活用・発信する	<input type="checkbox"/> レポートの一般的な体感を説明できる。 <input type="checkbox"/> 利用と制限の違いが説明でき、適切に引用できる。 <input type="checkbox"/> 参考・引用文献リストを作成できる。	<input type="checkbox"/> 事実に基づいた信頼性を示しながら、問題・課題に対して意見を積極的に述べることができる。 <input type="checkbox"/> 調査・学習・調査を適用できる。 <input type="checkbox"/> 知的財産権・著作権・個人情報保護等の権利に留意できる。	<input type="checkbox"/> 情報を活用するプロセスや明確性・正確性のモニタリングができる。 <input type="checkbox"/> 学術論文の構成に沿った文章を記述できる。 <input type="checkbox"/> 自分が発信した情報・論文を評価できる。

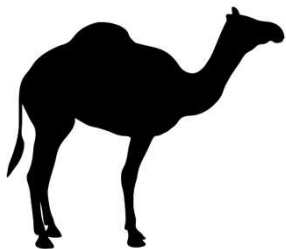
情報リテラシー教育を より良くするために

- ・ 図書館業務における情報リテラシー教育
- ・ 利用者を知る・大学を知る
- ・ 図書館外との連携
- ・ 他大学との情報共有



利用者を知る・大学を知る

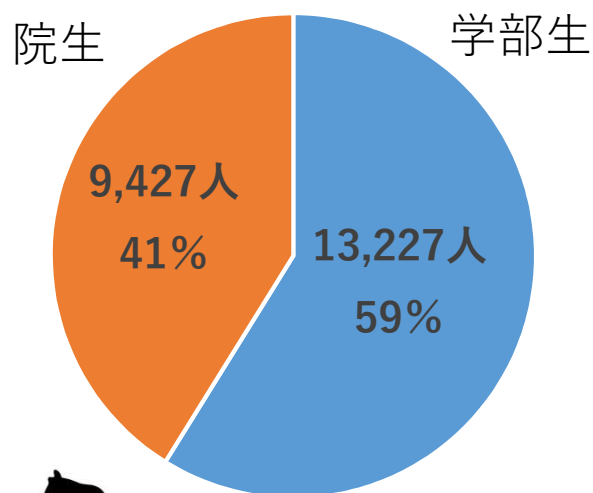
- ・統計等の数値から知る
- ・大学のポリシー等の文書から知る
- ・体で知る



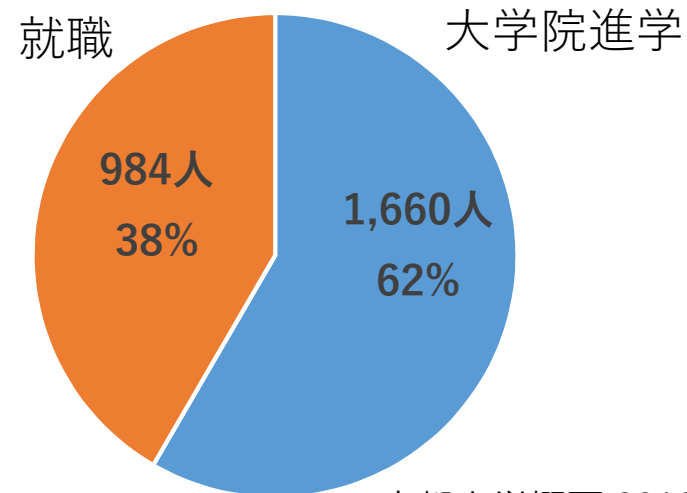
統計等の数値から知る

”学修支援”が流行だけど、本当にそれだけで良いの？

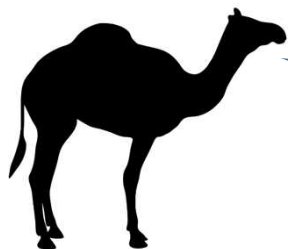
京大の学部生・院生の比率



京大の卒業生の進路



京都大学概要 2018年版より

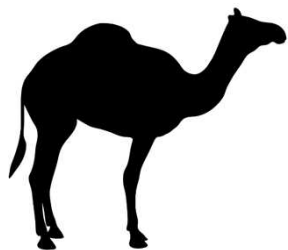


数字から見えてくることは多い！

大学のポリシーから知る

大学の3つのポリシー

- ・ アドミッション・ポリシー
どのような基準で学生を入学させるか
- ・ カリキュラム・ポリシー
どのように学生を教育し成長させるか
- ・ ディプロマ・ポリシー
どのような基準で学生を卒業させるか



図書館が貢献できる
ことも書かれている！



受験生の方

在学生の方

卒業生の方

京大について

入試・高大連携

教育・学生支援

研究・産官学連携

ホーム > 教育・学生支援 > ポリシー

ポリシー

ポリシー

> アドミッション・ポリシー

> カリキュラム・ポリシー

> ディプロマ・ポリシー

> アドミッション・ポリシー

> カリキュラム・ポリシー

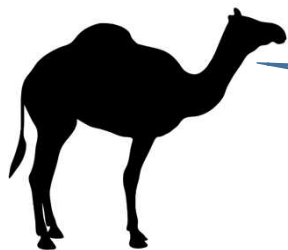
> ディプロマ・ポリシー

体で知る

*Il est très simple : on ne voit bien qu'avec le coeur.
L'essentiel est invisible pour les yeux.*

とてもかんたんなことさ。
心で見ないと、なにも見えない。
いちばん大事なことは、目には見えない

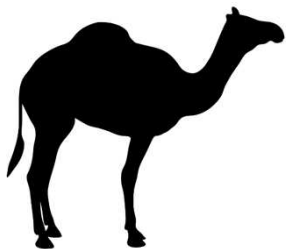
“Le Petit Prince” / Antoine de Saint-Exupéry
石井洋二郎訳



サービスの現場で
「感じること」を大切に！

情報リテラシー教育を より良くするために

- ・ 図書館業務における情報リテラシー教育
- ・ 利用者を知る・大学を知る
- ・ 図書館外との連携
- ・ 他大学との情報共有



図書館外との連携

パートナー

学内：

URA

教員

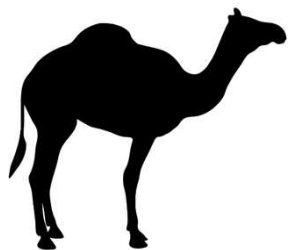
学生
スタッフ

学外：

出版社

ベンダー

etc



使えるものは、
敵でも使え！

学生スタッフの講座

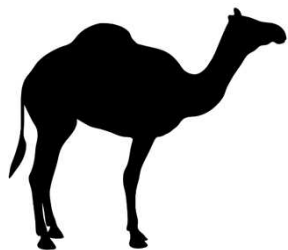
○ レポート執筆講座

新入生を対象に、前期と後期に1週間ずつ開催

- ・ 文系レポート編
- ・ 文献収集 編
- ・ 理系レポート編
- ・ LaTeX編



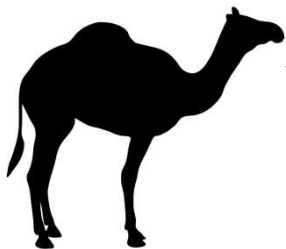
これも大ヒット!



学生スタッフの講座

○ その他講座

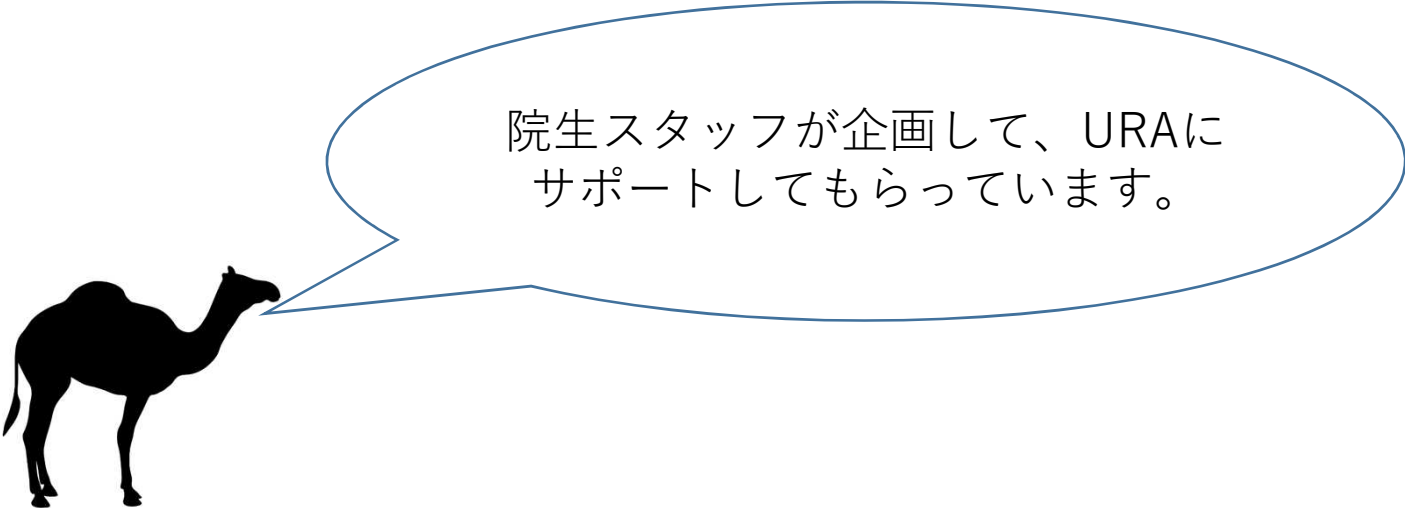
- ・ プレゼン講座
- ・ 研究のいろは (統計情報の活用講座)
- ・ 中国語版 文献検索講座



どれもスタッフが自主的に
提案してくれた企画!

URAと学生スタッフの協働企画

- ・ 「研究留学のすすめ」
(2015年度)
- ・ 「研究者としてのキャリアデザイン」
(2016年度)

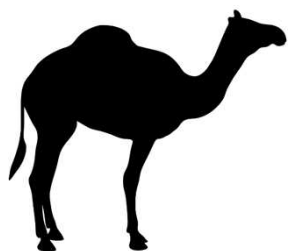


院生スタッフが企画して、URAに
サポートしてもらっています。

出版社と連携した論文投稿講座

「難関ジャーナルでアクセプトを勝ち取る」

Wiley社 コアジャーナルの編集長講演



ちゃっかり図書館員が
リポジトリの宣伝も！

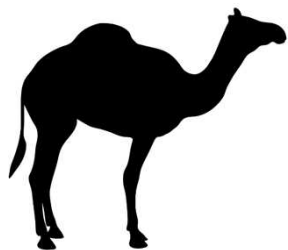
ベンダーと連携した研究支援講座

「研究成果発信のためのWeb of Science活用セミナー」

クラリベイト・アナリティクス社が講師

第1部：世界で戦える論文を執筆・投稿するための研究メソッド

第2部：日本の学会誌がWeb of Scienceに収録されるために



教員の成果発信に貢献！



では「大学図書館員」とは？

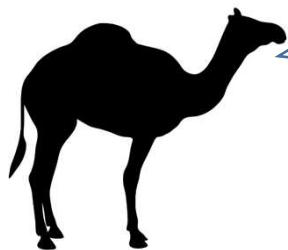
URA

教員

出版社

学生
スタッフ

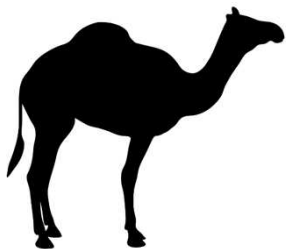
図書館員だからできること、
図書館員にしかできないことは何か？



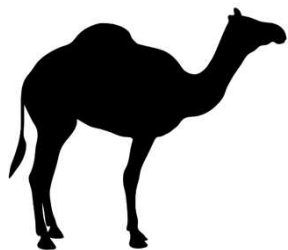
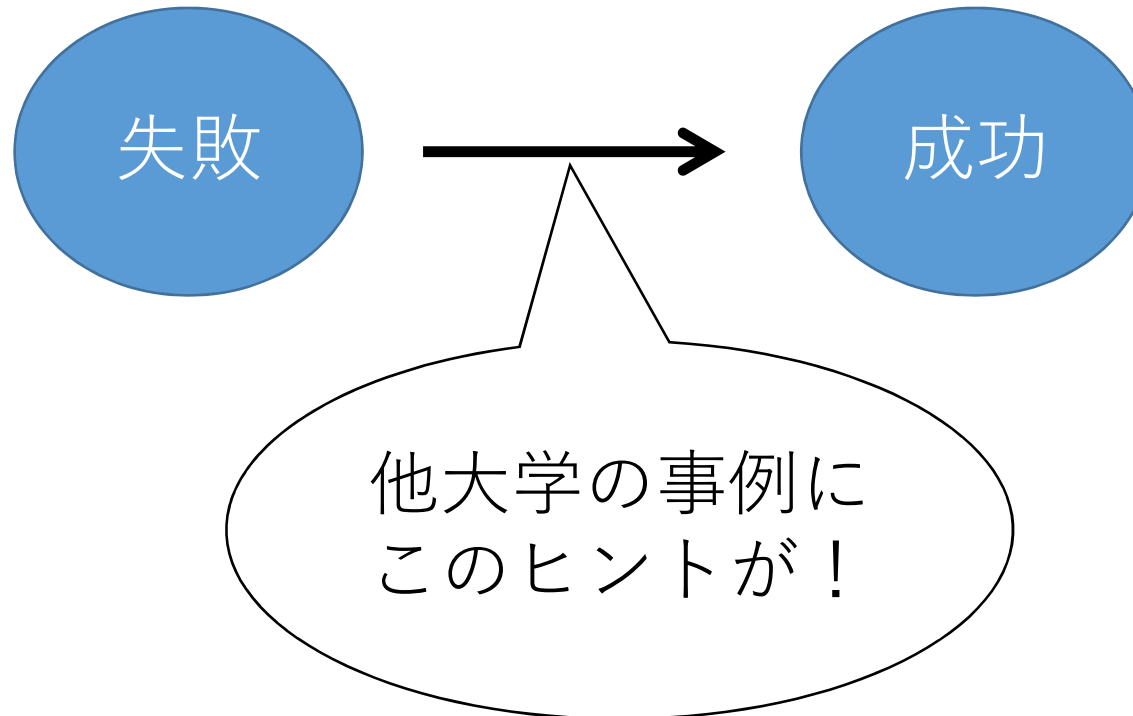
中立の立場で全体を
俯瞰できること？

情報リテラシー教育を より良くするために

- ・ 図書館業務における情報リテラシー教育
- ・ 利用者を知る・大学を知る
- ・ 図書館外との連携
- ・ 他大学との情報共有



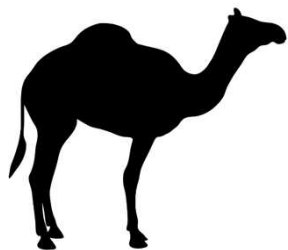
他大学との情報共有



ほんのわずかなきっかけ
で大きく変わる

他大学との情報共有その2

- 大学の中で、図書館員ほど横のコミュニティのつながりが強い職員はいない
- 積極的に、関係を構築する必要性
- 情報リテラシー教育では、特に意義が大きい



みんなで幸せになろう！

最後に

- ・ もう一度、
「図書館員にできることは何なのか？」
- ・ 私たちは勉強を続けなければいけない。
それが利用者にダイレクトに反映される。

ご清聴ありがとうございました

